

9月1日は「防災の日」

9月1日は**防災の日**です。大正12(1923)年の9月1日午前11時58分、震度7の大地震が関東地方を襲い、142,807名の尊い人命を失いました。防災の日は、これを教訓として、政府・地方公共団体はもとより、広く国民が、台風・豪雨・洪水・地震・津波などの災害についての認識を深めるとともに、こうした災害に対する備えを充実強化することにより、災害に未然防止と被害軽減に役立つための目的で、伊勢湾台風が来襲した翌年の昭和35年(1960年)に閣議決定しました。

また、9月1日は「二百十日」です。これは、立春から数えて二百十日。昔からこの時期には、日本に多くの台風が来襲すると言われていました。この二百十日の頃は、日本にとって重要な農作物である米の収穫時期に当たり、台風の来襲により、一年の努力が無駄になることもあったわけです。

昭和57年からは、9月1日の防災の日を含む一週間を**防災週間**と定め各関係機関が緊密な協力関係のもとに、防災思想普及のための行事や訓練などを行っています。

今年は **8月30日から9月5日まで「防災週間」**です。



防災の日と言え、特に何もしないという方も多いでしょう。何をすべきかわからないと言った方が正確でしょうか。そういう方も含め、防災の日にすべきことをまとめました。

◎家族との連絡方法

→地震が起これば当然家族の安否確認の為電話やメールをするでしょう。ですが、皆が同じ状況の中電話をするので繋がらないと考えておきましょう。そうすると、どうやって連絡を取るのか。所定の場所で待ち合わせるのか、駅などの伝言板に書き残すのか、避難所に行くのか。あらかじめ、どうやって連絡を取るのかを決めておきましょう。

◎帰宅経路

→公共交通機関、車、いずれにしても遅延や渋滞が予想されます。その際、歩いて帰れる道を想定しておきましょう。帰り道にある避難所などのチェックもお忘れなく。

◎家具などの転倒防止

→これは家財道具でドアが塞がれ、出ていけない・救助してもらえないという事態を防ぐためです。きちんとテレビ、食器棚など大きな家具は固定し、ドア付近には大きな家具を置かないようにしましょう。

◎持ち出し品の確認

→一般的なものに加え、持病のある方やコンタクトを使用している方など、「人からもらえない、あなた専用のもの」を入れ忘れないようにしましょう。そして、重要なのが水や食料です。最低3日分は用意しておくのが良いでしょう。非常食などの賞味期限切れにはご注意ください。軍手、スリッパ、ラップ、ゴミ袋、新聞紙、これら是对応力に優れており、持っていて損はないと思います。また、ホイッスルがあると救助してもらった時に役立つはずで。

いかがでしょうか。既に実践されている方はもちろん、何かからすればよいのか迷っている方は是非、この機会に実行してみてください。

その他、9月は安全に関わる記念日があります。普段しない、意識を持って過ごしてみることで安全につながる行動のひとつになるかもしれませんね。

9月9日は「救急の日」

9月21日～30日は「秋の全国交通安全運動」

9月30日は「交通事故ゼロを目指す日」